に變じたものもある。即ち西藏字の語頭語尾にダス氏の用ひるh|（Jäschke 氏の à）に對して自分は、'を用ゐた。無論此の字は漢字の音譯に於ては語間にも用ゐられて居る。發音は英語の hour, honour 等のhに當る。

ダス氏のñに對してはṅ字を用ゐた。勿論 ng の音を示す。

其の他の文字については、特に説明の不便を避くる爲、すべてダス氏に從つたが、元來西藏字の一字で表はして居るのを二字もしくは三字で寫すことによつて、或は誤解を生ずるかも知れないと考へたから、かゝる類の文字についてはすべて下に横線を施して、kh| ch| th| ph| ts| tsh| ds| sh| とした。此等はみな二字三字の連結によつて一個の西藏文字の音價を表はしたものである。

ç は英語 sharp の sh.

c は英語 porch の ch.

その他は特に茲に記さない。委しくはダス氏の藏英字典に附した發音表の參照を望む。

寫眞の文字の曖昧なものを寫出した場合には、（?）を付し、破れ又は汚れの爲に文字の見えないのを試に補つたものには〔 〕を加へて區別をした。……は汚損した文字の見えない所を示したものである。

漢字を〔 〕の中に收めたのは、寫眞には見えぬけれども千字文に照し、且つ西藏文字の音に考へ合せて誤ないと信じて揭げたものである。

西藏文字中、或は母音記號の脱落が存するのかと思はれるものもあるが、今は私意を加へず、その讀み得るものについては必ずそのまゝに譯載した。